イケメン記者の大物の予感！

no.19

予期せぬ事態と対応力

井上泰宏（いのうえ・やすひろ）
1986年生まれ　37歳
福岡県北九州市出身。大学卒業後ボートレース関係の会社に就職。2015年から日刊紙記者として若松ボートを担当後、20年から芦屋ボートに常駐。趣味は釣り。車のシート下に餌が転がり込んだことに気づかず、しばらく異臭を放ち続けたのがトラウマ。

卒業と新たなスタート

年末年始の年またぎで行われた芦屋と若松の正月戦へ取材に行ってきました。真剣勝負はもちろんなのですが、地元勢が集まる里帰り戦はどこか和やかな雰囲気が漂います。各場から2人が選ばれるフレッシュルーキー。昨年から今年にかけて福岡3場は6人全員が入れ替わることになり、担当場の芦屋では浦野海選手と富田恕生選手が卒業を迎えました。在任中にF2もあった浦野選手は芦屋での優出がなく「1回ぐらいは…」とラストチャンスに燃えていたし、一度優出して2着だったこともある富田選手もさらに上の結果を目指して気合十分でした。良機シリーズの中でともに手にしたのは中堅機。富田選手は予選落ち、浦野選手は準優4着とどちらも思い描いた結果を残すことはできませんでしたが、着実に力を付けているのは目の前で見てきました。これからの活躍にも期待しています。新たに芦屋のフレッシュルーキーとなった安河内鈴之介選手も走っていて、「まだデビュー3期目なのに選んで頂けてうれしい」と期待を感じ取っていました。なかなかうまくいかずモヤモヤしている場面が多かったですが、最終日にはまくって今年初、フレッシュルーキーとして初1着を挙げ意地をみせました。前任の2人が届かなかったA級昇格や優勝に期待です。

安河内鈴之介

気がついた時には…

シリーズは昨年の芦屋正月戦覇者の池永太選手が予選トップ通過から優勝戦1号艇と王道ルートに乗る活躍。「こういう大会（正月・GW・お盆）で連覇をしたことないのでしてみたいですね」と気合十分ではありましたが、優勝したのは幸野史明選手！　なんとこれがデビュー19年目にして初めての優勝。3カドにした新開航選手の攻めに乗って一気に突き抜けまし

幸野史明

タイム測定後ヘルメットなどを受け渡す選手たち

た。そして荒天のため安定板を装着し、周回短縮で行われた若松を優勝したのは平田忠則選手。ともに5号艇での優勝でした。

その後に下関のミッドナイトレースにも取材に行ったのですが、芦屋の正月戦を走っていた羽野諒選手と再会。芦屋の優勝戦のこと、そして若松は事故レースでもあったので選手の安否も含めて話す機会がありました。その中で「両方当たっている人もいるかもしれないけど、芦屋が5号艇の優勝だったからって若松も5号艇から買っている人もいるのかもしれないですね」なんてことを話したので、福岡3場の正月戦で一番開催日程の遅かった福岡にも注目していたのですが、こちらは1号艇の石倉洋行選手が逃げて優勝。「あれ？今日は6号艇が絡んで高配当が出ているぞ」と気がついた途端に次のレースから絡まないなんてよく聞く話ですが、3匹目のドジョウはいませんでした(笑)。

川野芽唯

ゴルフのメンタルが吉

そんな羽野選手、芦屋の正月戦では1着が取れず「なかなか年が明けませんね。何だったら何年か明けていない気がします…」と落ち込み気味だったのですが、芦屋と下関の間に「兄ちゃん(羽野直也選手)とゴルフに行ってきて、最後にバーディーを取りそっちで年も明けて気持ち良く下関に来ました(笑)」とリフレッシュ。下関の初戦は明らかに機力劣勢でしたが、後半ではまるで道が開けるように展開が向いて今年初1着。「分からないものですね。でも、いいメンタルでレースに行けたと思います。レースになると考えすぎてしまうので、ゴルフを楽しんでいる時みたいなメンタルでレースをすることができた方がいいのかもしれません」。誰かが勝てば誰かが負けるのがレースなので、誰しも浮き沈みはあるもの。技術はもちろんのこと、浮き沈みを小さく、基準を高く維持できるのがトップレーサーなのでしょうし、そこにはメンタルのコントロールも必須と言えるでしょう。

最大寒気と初体験

今季最大の寒気に見舞われた1月中旬。福岡県でも9日から10日にかけて積雪するなどかなり冷え込みました。芦屋では10日がGⅢオールレディースの前検でした。交通機関にも影響があったので個人的には選手の到着を心配していたのですが、誰一人遅れることなく全員集合。エンジン、ボートの抽選も終えて通常通りに前検作業が行われると思っていたのですが、試運転に出てくる選手がいません。変だなと思いピットへ向かうとやはり様子がおかしい。レース用のユニホームを着ている選手や、通勤で履いてきた靴をそのまま履いている選手が多数いるのです。レース場では登録番号と名前の入った服を着ているのですが、よく見ると真子奈津実選手や戸敷晃美選手らの服を着ている選手が何人もいました。実は選手は宅配便を使って衣類やプロペラゲージ、ヘルメットなどをレース場からレース場へ送ることが多いのですが、この日は雪の影響などでその荷物が届かなかったのです。真子選手らの名前が付いた服を着ている選手が多かったのは、かなり寒かったこともあり地元で荷物を持って来ていた選手たちの服を借りていたということ。ギリギリの追加あっせんで配送が間に合わないというパターンは何度かありますが、大多数の荷物が届かないことは初めての経験でした。

偶然ながら、このタイミングで芦屋ボートから出場選手にアシ夢のイラストと登録番号が入ったネックウォーマーのプレゼント。かなりの寒さだったので、これに助けられた選手も多かったようです。

対応にただただ感謝

衣類もそうなのですが、ヘルメットが届かないとボートに乗ることができません。そこでヘルメットを含めてあるだけの道具をみんなで着回してタイム測定だけ行われました。通常はボートを水面から上げると競技棟までカポックを返しに来るのですが、そこまで来ることなく必要なものを受け渡して続々と水面へ。アクシデントにも動じることなくスムーズに作業が行われました。前検では試運転の感触やS特訓での他者との比較を聞くことが多いのですが、この日は単独で1周走っただけ。選手はコメントをしづらい状態だったにも関わらず、ファンのためにできる限りのことを伝えてくれました。選手が走ってこそですが、それを支えるのはファンの投票、応援ありきなんだと改めて感じさせられました。